

92 たつおかはんこうさつば 龍岡藩高札場



指 定 市有形文化財 平成9年4月1日
 所在地 田 口
 所有者 佐 久 市



高札（たかふだ、制札、大札とも言う）を掲げる場所で、藩政時代に法度・掟・禁制等を板に書いて掲示し、広く領民に知らせた場所である。元来、政治的、軍事的権力者が、人々に禁止事項を公示する文書を制札・禁制と言う。中世末期以来民衆に対し法令を徹底させるために高札の形で用いられ、江戸時代この前を通過する際は脱帽、敬礼をすることを習わしとした。

明治6年（1873）、全国に撤廃令が出されるまで160年間、専制領主の上意下達の間として、今に残る田野口藩（龍岡藩）の重要遺構である。高札場は旧田野口村中町の新海三社神社表通りの用水沿いに面し、田野口藩陣屋外囲い堀表左角に設けられていた。

佐久領支配の代官所である陣屋は「宝永六己丑年（1709）八月三塚陣屋代官小屋が田野口移転、代官全部引越し」とあるが、「翌宝永庚寅年（1710）二月陣屋棟上げ、同四月竣工式」となっているので、本格的な陣屋として内外共に政務の整ったのは宝永7年と推定されている。

この高札場の建設についての明確な資料はない。宝永元甲申年（1704）に領政の基本方針を示した田野口領法度書が布達されている点や、陣屋としての高札場の重要性（情報伝達）からみて、また現在陣屋敷地跡の南外周に残されている石垣と、高札場の石積みが同性質である点から、同時代に設置されたとされる。

石積みは、間口4.3m、奥行2.27m、高さ0.9mの堅固な三段積み。木造部分は間口4.2m、高さ3.33mの板屋根で、石積みの上の表面に25本、奥行10本の頑丈な木柵が巡らされている。

領内25か村に幾つかある高札場としても最大規模のもので、領民に対しておのずから重圧と権威を感じさせる規模と構造になっている。昭和50年（1975）に大修理を行い、以前の状態に復元した。